第3回

カザフスタン・ウズベキスタン

価値観を覆す、感動の中央アジア2ヶ国

近くて遠い中央アジア、普段目にする紛争や内戦のニュースだけで、近づきがたい国とレッテルを貼ってしまいがちです。実際目にした空気は、私たちの想像を超えた色鮮やかな景色が彩ります。次はどんな世界を見せてくれるのでしょうか？

学習プログラム

様々な視点からの情報収集

第3回プログラムは、「シルクロードをたどる平和への旅と学び」というテーマを掲げスタートしました。授業講師として、渡航経験者、ユネスコ、JETRO、大使館関係者を招いた特別授業は、学生にとって有意義な学びとなりました。これらの特別授業を中心に、そのための事前学習と復習の時間を課し、学生同士のディスカッションを通して相互に学び合うことができました。授業を進めていく中で、中央アジアの経済や世界遺産に関する最新ニュースなどもいち早く取り入れ、中央アジアを総合的に学んでいく中で学生の理解は深まっていきました。

発信力を高める学び

アウトプット型の授業として、新・文明の旅特講aで学んだことをベースに自分なりの視点で中央アジアを紹介するプレゼンテーション資料と、自己紹介ポスターの作成に取り組みました。もう一つの活動として、国内フィールドワークがあります。教職員からは各チームに中央アジアと日本の繋がりを課題設定し、学生たちは問いを立て、調査地を選定し、調査テーマを絞っていきました。

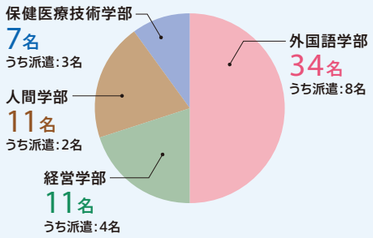
学生の協同活動

学生たちは5つのチームに分かれ、東京、山梨、広島、奈良、群馬の各地にフィールドワークへ出掛けました。中央アジアと日本の関連について、出土された美術品や展示・資料を見ることは、シルクロードとの繋がりを身近に感じるよい機会でした。学生たちは今後の渡航に向けて得た知見を基にプレゼンテーションを作成・発表、フィールドワークによって異なる関心や考えをもったメンバーを知り、より一層シルクロードについて深く学び合うことができました。

スケジュール

2017	2018
4月：履修学生募集 新・文明の旅 特講a	3月：新・文明の旅 派遣プログラム 3月13日～3月22日
9月：新・文明の旅 特講b	4月：新・文明の旅 総合講義
11月：フィールドワーク	
12月：派遣学生選抜発表	10月：派遣メンバープログラム報告

参加学生数（全参加数：63名）



2018

Republic of KAZAKHSTAN　Republic of UZBEKISTAN

派遣プログラム

Kazakhstan カザフスタン

カザフ国立大学訪問

現地の学生と文京生によるプレゼンテーションを行いました。まず文京生より、授業で学んできたシルクロードについてプレゼンを行い、現地の学生からは、カザフスタンの観光名所、スポーツ、食べ物、楽器、文化などについて流暢な日本語で紹介されました。その後、アルマティ市内にあるカザフスタン・日本センターを訪問し、そこではカザフ国立大学の学生のみならず、日本に関心がある方々の歓迎を受け、カザフスタンの歌やダンス、演奏などで盛り上がりました。

カザフスタン・日本センターでは皆さんと記念撮影

Uzbekistan ウズベキスタン

ウズベキスタン世界言語大学訪問

ウズベキスタン世界言語大学は、国内最大級の外国語大学。英語をはじめ約20か国語のコースがあり、その中に日本語を主専攻とするコースもあります。学生たちは、日本とウズベキスタンやシルクロードとの関係、日本とウズベキスタンが協同で事業を起こす提案など、事前調査で学んだことを発表しました。午後は、現地学生の提案でプロフ（＝米を肉、スパイス、野菜とブイヨンで煮たウズベキスタンの伝統料理）を作ってホームパーティーをやろうとバザールで食材を探すところから始まり、心温まる手料理のおもてなしに感動しました。

自己紹介プレゼンテーションでアピール

国内フィールドワーク

第3回「新・文明の旅」では、シルクロードと日本の関係を探るために、学生たちはチームに分かれて全国各地でフィールドワークを行いました。
山梨県へ「縄文遺跡の山梨でシルクロード文化を探れ！」、東京都へ「中央アジアの発展と未来の展望を探れ！」、群馬県へ「大陸から伝わった絹織技術と文化の最終形を探れ！」、奈良県へ「シルクロードの東の果て奈良に何かがある！」、広島県へ「シルクロード親善大使、平山郁夫の故郷に行こう！」という5つの調査活動が展開されました。参加した学生たちは、自分たちで問いを立て、自分たちの足で探り当てた知見を基にプレゼン資料を作成し発表を行いました。シルクロードを理解するうえで、どれも興味深い発表となりました。

各国内調査場所での活動の様子

Republic of KAZAKHSTAN
Republic of UZBEKISTAN
03

Interview

第3回 新・文明の旅 派遣メンバー
経営学部 2019年度卒業

宮野 豊さん

社会人経験を経て本学に入学。ゼロから起業を学べる場所を求め、櫻澤ゼミにたどり着いた。卒業と同時に、業務用音響機器の販売会社でCEOに就任。現在は社内ベンチャーとして新規事業を立ち上げ、忙しい毎日を送っている。

◀ インタビューを動画でご覧いただけます。

参加学生インタビュー

国の未来を自分事として捉える本気の人々を前にすると甘かったなと気づかされました

新たな国で出会った学生たちが自分の起業家志向に影響を与えた

大学入学前からいつか起業をしたいと考えており、在学中は櫻澤先生の下で経営学を学んでいました。このプログラムはそれらの学びをアウトプットできる場として、そして経験を起業にもつなげたいという思いで参加を決めました。

きっとこういう機会がなかったら、私は中央アジアについてここまで知ることはなかったでしょう。未知の世界に飛び込む期待感を持って渡航し出会ったのは、ハングリー精神のあるウズベキスタンの学生たちでした。発表で私たちは事業提案をしたのですが、プレゼン後すぐに現地の学生たちが「日本とビジネスがしたい」と話しかけてきてくれました。実現までは考えていなかった自分にとって、実際のビジネスにつなげたいという彼らの本気の思いは大きな刺激を受け、すぐにでも国に利益をもたらす人材になりたいという考えに、まだまだ自分は考えが甘かったなと気づかされました。

帰国後もウズベキスタンの学生たちとは交流を続け、本気で事業立ち上げに向けて活動することに。ビジネスプランコンテストへ出場し実現に向けて動く中、新型コロナウイルス感染症が流行してしまいました。今はお互い、それぞれの国でノウハウを蓄積する時期にしようと決め、計画はストップしていますが、数年後には必ず実現させます。

だからこそ現在の仕事でも、新規事業立ち上げなど積極的に手を挙げ、成長を続けていかなくては、というモチベーションになっていますね。

振り返ると「新・文明の旅」は、大学生らしい学びが濃く体験できる場であり、たくさんアウトプットをして失敗を糧にできる貴重な経験でした。もし失敗しても、それは自分の実力を知ることができる得がたい機会になります。知らない世界に飛び込む勇気こそが大切ですし、今自分が生きていく中で背中を押してくれるものになっています。

訪問国の大学に「新・文明の旅」の感想をお聞きしました!

お答えいただいたのは・・・

ウズベキスタン国立世界言語大学

イブラギモヴァ・マリカ先生

Q1 「新・文明の旅」プログラムの印象はいかがでしたか?

非常にいいプログラムだと思います。このプログラムを通じて学生さんの視野が広がり、普段の生活の中でなかなか積めない経験を得ることができます。現在のグローバル化社会に必要な国際理解ができるようになると思います。または、若者同士のグループで楽しい旅、面白い作業をするのは一生忘れられない思い出になると思います。

Q2 貴学の学生たちへの効果、プログラムの利点と感じているところは?

本学の日本語を勉強している学生のためには日本人とコミュニケーションできる貴重な機会でした。なお、日本人の若者と話したこと、日本のことを紹介していただいたのが本当によかったです。

Q3 本学に対する今後への期待をお聞かせください。

是非、今後とも「新・文明の旅」プログラムに参加させていただきたいです。例えば、このプログラムの発展版として前もって若者同士で何か社会的な意義のあるプロジェクトを準備し、貴学の学生さんがウズベキスタンにいらっしゃった時にそのプロジェクトを実施し、結果を発表することはいかがでしょうか。

College Information

ウズベキスタン国立世界言語大学

住所:Решетов кўчаси, Тошкент, UZBEKISTAN

ウズベキスタンの首都タシュケントにある、同国最古かつ最大の大学です。学部は英語(第一〜第三)、ローマン・ドイツ語、ロシア語など7学部が設置されており、通訳学部に日本語を主専攻とするコースがあります。